



発行 一般社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス ソフトウェア部会の活動紹介
- 2-私の提言 視覚障害者の移動における安全の確保を
- 2-ルポルターージュ 第389回事業所見学会ルポ
- 3-ルポルターージュ JSQC規格「プロセス保証の指針」講習会ルポ/  
第128回関西講演会ルポ
- 4-5月の入会者紹介/教員公募/行事案内/総会告知

## ソフトウェア部会の活動紹介

ソフトウェア部会 部会長 長坂 康史

### ■ソフトウェア部会

ソフトウェア部会は、日本のソフトウェア産業の競争力の確保を目的とし、ソフトウェアの品質に焦点を当てた活動を行っている。ただ、大きな目的を掲げてはいるものの、一言に品質と言ってもその範囲は大変広く、方向性も多岐にわたることから、非常にゆっくりとしたペースで活動している。

登録メンバは80名ほど、その中でもアクティブメンバは約20名。せっかく登録されているのに、まだお会いできていない方も大勢おり、この点については、興味を持っていただくため、また、部会会合に足を運んでいただくために、何をしなければならぬかを真剣に考えなければならぬと思っているところである。

ソフトウェア部会の活動の中心は、ほぼ毎月開催される約2時間の部会会合で、メンバ同士の交流とともにテーマに関する議論を行っている。出席者は毎回、15名程度であるが、産学両方から参加があり、その割合は4対1ほど。また、年齢の幅は30歳をゆうに超える状況で、いろいろな意見が飛び交い、議論は脱線しながらも、得るものも多い、楽しい会合となっている。

### ■これまでの部会活動

ソフトウェア部会のメンバは、ソフトウェアの開発経験の豊富な方々から、まだそれほどでもない方々まで幅広い。そのこともあり、これま

での経験をいかに若い世代に伝えるかということに焦点を当て、明文化されていない暗黙知を経験者から引き出し、それを形式知化することに力を注いできた。その結果、「形式知集」としてまとめたことはご存知のとおりである。

この成果物は、ソフトウェア開発で問題が起こった時に、その解決の糸口をこれまでの経験から見つけるための逆引き形式となっている。学会のウェブページからダウンロードできるので、是非、参考にさせていただきたい。

### ■最近の部会活動

部会活動は、常にソフトウェアの品質を議論の中心に置きながら、ゆっくりではあるが目的に向かって一步一步、進んでいる。形式知集が完成した後は、これまで高い品質を保ってきた日本のソフトウェア開発に焦点を当てることで、これからのソフトウェア品質を議論することができないか、また、豊富な経験をお持ちの方々がこだわってきたものに焦点を当てることで高品質を考えることができないか、といろいろな角度から意見交換を進めてきた。

最近では、産学それぞれの方々が集まっていることもあり、品質の高いソフトウェア開発を行うための人材育成をテーマとして議論している。

紆余曲折を経て、現在、ソフトウェア開発の初期段階である要求定義に着目している。単なるテクニカルラ

イティングの手法ではなく、要求仕様書という文書の性質を理解した上での文章表現と文章構造が必要ではないかと考え、その部分に焦点を当てている。今後、様々な角度から議論を深め、ある一つの形を示すことができればと思っている。

### ■部会会合でのできごと

先日の部会会合で、要求仕様の文章表現について議論している時に、どうも話がかみ合わないことがあった。日本語表現は難しいという話をしているくらいなので、十分注意して話を進めていたはずだったにもかかわらず、である。結局、仕様書の読み手を明確にせずに議論していたことが原因だったのだが、まさに、議論している表現の難しさを皆が経験した面白い瞬間であった。

### ■ソフトウェア部会へのお誘い

ソフトウェア部会の会合は、自由に話ができる、楽しい意見交換の場であると考えていただければと思う。メインテーマを中心にして話を進めてはいるが、日々の開発で困っていることを相談する場や情報発信の場であっても良いと考えている。また、メーリングリストやSNSを利用した情報交換や情報発信も進めつつある。これら一つ一つの活動が、日本のソフトウェア産業の底力になると信じている。

ぜひ、より多くの皆様にソフトウェア部会に参加していただき、楽しく議論していきたいと考えている。

## ● 私の提言 ●

## 視覚障害者の移動における安全の確保を

筑波技術大学 保健科学部情報システム学科 嶋村 幸仁



私が勤務する国立大学法人筑波技術大学は、我が国で唯一の聴覚障害者・視覚障害者のための高等教育機関として、29

年前に創られた大学です。私は、視覚障害者に対して経営学系の教育と就職の担当を行っていますが、学生及び保護者からは卒業と就職の両方を同時に叶えてほしいとの要望がとても強い大学です。実際、学生が一人で就職先を探すのは、障害の程度にもよりますが、とても難しいです。

視覚障害者といってもその見え方は

全盲者から弱視者まで千差万別で一人ひとり違います。焦点が合わずぼやけてしまう、明るい・暗いと視力が低下する、視野が狭い、視野の一部が欠損しているなど特に、中心部が見えない症状の学生はとても苦慮しています。しかし、近年ではPC（パソコン）におけるスクリーンリーダーが発展しており、音声のみでPCを操作し、Excel、Wordの操作やプログラミングをすることも可能です。情報システム学科の学生はこうした能力をつけて就職しています。就職にあたっては現在、障害者の法定雇用率（民間企業で従業員50人以上の場合には2.0%の雇用）の枠を利用しての就職が多いです。

しかし、就職には公共交通機関を利用して一人で会社まで移動できなくて

はなりません。特に、全盲者などは、白杖や盲導犬を利用しての移動を行っていますが、8月15日に東京メトロ銀座線青山一丁目駅にてホームから線路に転落し、電車にはねられる死亡事故が発生しています。また、7月2日には兵庫県の山陽電鉄西飾磨駅で点字ブロック上にあった工事用のフェンスに白杖を引っ掛けて転倒し、脚を骨折する重傷を負っています。視覚障害者の36%が線路への落下経験があるとしているデータもあります。さらに、東京メトロの全179駅のうち2割にあたる32駅で点字ブロック上に柱があり歩行を妨げているとのことで、視覚障害者は柱を避ける際に方向感覚を失うことがあると聞いています。就職ができて移動に不安がある状況を改善してもらいたいと思います。ホームドアの設置や点字ブロックの改善を望んでいますが、資金面での設置困難理由を挙げています。しかし、高価なホームドアではなく、簡易的に線路沿いにパイプを埋め込みロープやチェーンなどを張ることで緊急に対応するなど、対策を進めていただきたいと切に願うものです。

### 第389回 事業所見学会 レポート

## ヤマトホールディングス(株) 羽田クロノゲート (6/30) 物流を通じた価値創造の拠点

2013年9月に竣工したヤマトグループ最大級の総合物流ターミナルで24時間営業の羽田クロノゲートを見学した。その良好な立地により陸海空のスピード輸送ネットワークと高付加価値機能を一体化した戦略的な拠点で、広く自社の物流サービスを広報活動の一環で紹介する、B-to-C企業らしい外部向け90分の見学コースが用意されている。

同ゲートウェイは、他の国内ゲートウェイやベースと呼ばれる複数の物流基地と連携するネットワークの重要なハブで、国際ネットワークはアジア向けには羽田空港経由沖縄、欧米向けには成田空港を拠点に繋がる。重要な“バリュー・ネットワーク”の構想は、コスト、品質、スピードの3つの価値の相乗であり、どれかが欠けても機能しない。

近年のEコマースの進展による翌日配送の宅急便(ヤマト運輸の宅配便の商号)の需要拡大動向を受け、多

頻度輸送で当日配送をも実現するしくみを構築中だが、この事はスピード輸送が標準となる進化し続ける(止まらない)物流改革を象徴する。

見学コースでは、クロスベルトソーターにより、荷物が行き先別に仕分けされるエリア等を紹介頂いた。見学中は多数の活発な質疑応答が行われた。

見学の最終エリアでは、今日的な映像によるしつらいのホールで、物流やヤマトに関するコンテンツを選択でき、FRAPSというピッキングによりノベルティ(お土産)を渡す工夫もこらされていた。

最後に、私は『クオリティマネジメント』(2002.7)で、ヤマト運輸の有富社長へインタビューを行った事があり、偶然にも因縁のある企業の見学だった。当時から本社オフィスは小さく、顧客(消費者)に近いSD(セールスドライバー)が主役のビジネスモデルであった。メーカー主導のSCMというよりデマンドチェーンマネジメント(DCM)を重視する事業戦略を継続実行する進化する企業である。グローバル化の波を受け、アジアにも翌日配送が当たり前になる日も来るだろう。

伊藤 由紀美(Y&I ジャパン)

## JSQC規格「プロセス保証の指針」講習会ルポ

住本 守（標準委員会）

2016年7月1日の午後、63人が参加し、昨年12月に制定されたJSQC-Std 21-001「プロセス保証の指針」の講習会が開催されました。住本標準委員会委員長が、プロセス保証に関する総合的なパッケージを提供するという規格制定の目的の説明、及び制定に至る背景として、ISO 9001を導入している組織でプロセス保証が忘れられているケースが少なくない現状について話した後、原案作成委員会委員長の山田慶応大学教授より品質保証におけるプロセス保証の役割と構成要素（「標準化」、「工程能力調査」、「トラブル予測・未然防止」、「検査・確認」及び「工程異常への対応」）の説明がありました。

その後、規格及びテキストをベースに、プロセス保証の構成要素毎に「標準化と工程異常への対応」、「工程能力の調査・改善」、「トラブル予測・未然防止」及び「検査・確認」についてポイントを絞った説明が行われました。「標準化と工程異常への対応」では、標

準化及び工程異常の意味と標準化及び工程異常への対応の進め方など、「工程能力の調査・調査改善」では、プロセス保証と工程能力の調査・改善、及び工程能力指数の算出方法など、「トラブル予測・未然防止」では、トラブル予測・未然防止の意味、トラブル予測・未然防止の進め方及びプロセスFMEAなど、「検査・確認」では、検査・確認の目的、検査・確認の要点、検査・確認の設計、保証度の評価及び保証の網などについての説明がありました。

最後に、総合質疑があり、潜在的なニーズに対するプロセス保証、プロセスを見える化するツール、プロセスFMEAの判定基準の設定、及び検査・確認は何故ゼロにならないかなどについての活発な討論が行われました。参加者からは、「プロセス保証について理解が深まった」「本質的な説明を分かりやすくして頂き感謝します」「定期的な講習会の開催を望む」等の声がありました。

### 第128回関西 講演会 ルポ

## お客様によるこびと感動を 与えるモノづくりとTQM

7月4日(月)、大阪大学中之島センターにおいて関西支部主催の第128回講演会が開催され、53名の参加者が標題のテーマについて熱心に聴講した。

1つ目の講演は、(株)GSユアサ 産業電池電源事業部 産業電池生産本部本部長 田淵淳氏から『TQM本格導入による経営体質の強化と現場力の向上』と題して、2015年度にデミング賞を受賞されるに至った具体的な取り組みを豊富な事例とともに紹介いただいた。

まず2008年度のリーマンショックによる業績低下の中でもその原因を他責のみに帰することなく、むしろ内部組織の体質強化を目指してTQMに注力された経緯からお話しされた。具体的な取り組みとしては、人事考課と融合した方針管理の実施例や、現場力を活用した改善活動事例、独自のDR強化策による抜け漏れのない変更点管理の実現、個人のスキルに依存しない未然防止評価の定着などの実例を、その効果とともに示された。

いかなる環境の変化にも対応し、常に改革の風土を發展させて成長し続ける組織を目指す姿勢と活動はどのような組織にとっても参考になるものであった。

2つ目の講演は、(株)島津製作所 広報室課長 榎本晋虎氏から『島津製作所のモノづくり』と題して、創業からの141年の歩みを多岐にわたる企業活動の実態とともに紹介いただいた。

創業当初からの「御好次第何品ニテモ製造仕候也」の精神を受けつぎ、日本初の商品を連打しつつ多くの分岐企業を生み出されてきた歴史や、2002年のノーベル化学賞受賞者輩出時の逸話など、当時の貴重な資料とともに多数紹介があった。また注力分野での取り組みを「健・環・暮」として紹介され、医療への貢献、食の安全安心、水質環境保全などの分野での先進的な活動を共有することができた。

最後に日本をマザー工場と捉え、そこで培われている匠の技や、工場を支える小集団活動「DIO活動」について品質へのこだわりとともにお話しされた。

お二人とも限られた時間の中で具体的な事例を交えながら多くの示唆に富むお話を紹介いただき、大変有意義で得るところの多い講演会であった。

巽 敏博（パナソニック(株)）

## 2016年5月の入会者紹介

2016年5月17日の理事会において、下記の通り正会員7名の入会が承認されました。

(正会員7名) ○平野 征矢男(ケイ・シー・シー) ○徳寺 重和(星和電機) ○小澤 茂行(ジャトコ) ○正垣 俊恵(レーザーテック) ○山岸 優(山岸技術士事務所) ○浅野 功(パナソニック) ○小林 仁(積水化学工業)

正会員：2030名  
準会員：55名  
職域会員：39名  
賛助会員：151社196口  
公共会員：17口

## 教員公募

### 千葉工業大学 社会システム科学部経営情報科学科 教員公募

募集人員 教授、准教授、または助教 1名  
専門分野 社会システム工学分野  
着任時期 2017年4月1日  
応募締切 2016年9月30日(金)(当日消印有効)  
詳細 ホームページをご覧ください。http://www.it-chiba.ac.jp/media/keiei.201608.pdf

### 秋田大学 システム科学技術学部経営システム工学科 教員公募

募集人員/所属  
経営管理講座 教授または准教授 1名、助教 1名  
経営数理講座 助教 1名  
着任時期 平成29年4月1日  
応募締切 平成28年11月30日(水)必着  
詳細 ホームページをご覧ください。http://www.akita-pu.ac.jp/gaiyo/saiyo.htm

## 行 事 案 内

### ●第109回QCサロン(関西)

テーマ：継続的な品質教育体制の強化による品質風土の向上  
ゲスト：太田茂雄氏(ローム)  
日時：2016年10月5日(水)19:00~20:30  
会場：中央電気倶楽部5階513号室  
参加費：1,000円(含軽食・当日払い)  
申込先：関西支部事務局  
詳細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h281005

### ●第390回事業所見学会(本部)

テーマ：ANAグループの「安全」の取り組み  
日時：2016年10月26日(水)14:30~17:00  
見学先：ANAグループ安全教育センター  
定員：25名  
参加費：会 員3,000円 非会員4,500円  
準会員2,000円一般学生2,500円  
※当日払い  
申込締切：2016年10月19日(水)  
申込先：本部事務局  
詳細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h281026

### ●第100回記念クオリティトーク(本部)

テーマ：これからの…  
ゲスト：前田又兵衛氏、狩野紀昭氏、飯塚悦功氏、大沼邦彦氏、大久保尚武氏  
日時：2016年10月22日(土)13:55~17:00  
会場：日科技連東高円寺ビル 地下1階講堂、ほか  
定員：100名

〔第一部〕トークショー  
〔第二部〕質疑応答&交流会  
参加費：会員3,500円 非会員4,500円  
準会員・一般学生2,500円  
(含軽食・当日払い)  
申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。  
詳細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h281022

### ●第46回年次大会・名古屋工業大学(本部)

日時：2016年11月25日(金)26日(土)  
25日(金)13:30~16:00 事業所見学会A  
三菱重工 MRJ 小牧南工場  
13:30~16:00 事業所見学会B  
メイドー 三好工場  
18:00~20:00 年次大会懇親会  
26日(土) 9:30~10:40  
通常総会/各賞授与式  
10:40~11:40 会長講演  
椿 広計氏(統計センター)  
12:40~17:30 研究発表会  
参加費：(研究発表会の当日払いは別金額)  
見学会・研究発表会  
会 員7,320円(締切後7,860円)  
非会員13,140円(締切後14,220円)  
準会員4,160円 一般学生5,740円  
研究発表会  
会 員4,320円(締切後4,860円)  
非会員8,640円(締切後9,720円)  
準会員2,160円 一般学生3,240円  
懇親会  
会 員・非会員 4,500円  
準会員・一般学生2,500円

申込締切：2016年11月16日(水)  
詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h281125

### ●JSQC規格「方針管理の指針」講習会(本部)

テーマ：変化への対応の切り札一方針管理による改善・革新を促進する  
日時：2016年12月8日(水)13:00~17:00  
会場：日科技連東高円寺ビル2階講堂  
定員：100名  
プログラム：  
JSQC規格「方針管理の指針」制定のねらい  
1. 方針管理の基本  
2. 部門における方針管理の進め方  
3. 組織全体の方針管理の進め方と方針管理の推進  
全体討論  
参加費：会 員4,320円(締切後4,860円)  
非会員6,480円(締切後7,020円)  
準会員2,700円一般学生3,780円  
※当日払いは別金額  
申込締切：2016年12月1日(木)  
詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h281208

### 行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/  
本 部：TEL 03-5378-1506  
FAX 03-5378-1507  
E-mail：apply@jsqc.org  
関西支部：TEL 06-6341-4627  
FAX 06-6341-4615  
E-mail：kansai@jsqc.org

## 第46回通常総会開催

日本品質管理学会第46回通常総会を右記のとおり開催いたします。

日 時：平成28年11月26日(土)9:30~10:40  
場 所：名古屋工業大学(愛知)